

ほ場整備の試掘調査

—富山市水橋地区の試掘調査—

発掘調査最前線

はじめに

昨年、富山米の新品種「富富富」が発表されました。今秋の本格デビュー、香りや味が今からとても楽しみです。農業の新時代を支える動きのひとつに県内で広域に進められている「ほ場整備事業」があります。効率の良い農地を整備し、生産力強化や水田の汎用化などが期待されています。

こうした農地整備の工事を行うにあたっては、水田の下に遺跡が埋まっている場所があるため、事前に試掘調査を行い、遺跡に影響が及ばないように調整するための状況把握をしています。今年度は富山市水橋地区において、田伏・佐野竹遺跡、水橋石政遺跡、水橋池田館遺跡、水橋開発町遺跡、水橋狐塚遺跡の5遺跡を調査しました。

水橋地区の水田

富山市北東端に位置する水橋地区は、江戸時代には白岩川河口を中心に栄えた港町として、また「富山の売薬さん」の故郷としても知られています。水橋地区の南部を中心に広がる水田の下には、縄文時代から近世まで数多くの遺跡が存在しています。有名な遺跡では戦国時代に織田信長に付く佐々成政と越後上杉勢との攻防の場であった小出城跡や、中世の双六盤が出土した水橋金広・中馬場遺跡などが挙げられます。

またこの一帯には立山に源を発する常願寺川、白岩川、上市川が蛇行し、支流も網目状に走っています。そのため年間を通して水が豊かな地域ですが、試掘本番を迎える稲刈り後でも水田が完全に乾燥することはまれで、少々の雨でもぬかるみが目立ちます。地元農家の方からは、軟弱地盤では農耕機が沈むため、耕作に大変苦勞していると聞きました。

試掘調査

試掘調査はトレンチとよばれる幅約1m、長さ約5～20mの溝を掘り、遺構・遺物の有無、遺跡の広がりや残り具合を確認する調査です。



重機で掘り下げる



観察できるようきれいに削る

今回は重機を使ってトレンチを掘り、溝の壁面や床面は土の色・質が観察できるよう、作業員がスコップやジョレン、シャベル等の道具できれいに削ります。調査員は堆積した土の層を観察し、写真や図面、標高

などの記録を取ります。記録後はまた重機によって埋め戻し、調査終了です。今年度は5つの遺跡で合計203ヶ所のトレンチを調査しました。



確認できた柱穴



土層を観察・記録する

調査の結果

たぶせ さのたけ ・田伏・佐野竹遺跡

北陸新幹線の沿線にあり、昨年度に引き続いて調査しました。今年度は遺跡の中央から西部分にかけて7～8月にトレンチ32ヶ所、10月に50ヶ所を設定しました。昨年度調査した遺跡南東部分では良好な遺物包含層や住居跡等は認められず、遺跡のひろがりはないと判断されましたが、今年度は遺跡東側の一部で隣接する石割川の自然堤防とみられる微高地を確認しました。この微高地上で掘立柱建物の柱穴と区画溝などを検出し、一緒に出土した珠洲焼や中世土師器から中世の集落が存在したと考えられます。

・水橋石政遺跡

西に白岩川を臨み、旧小出川跡地を含む遺跡です。かつては川原石政と呼ばれ、白岩川に渡し場があったと伝えられています。調査は遺跡中央から北部分にかけて、8月にトレンチ32ヶ所、10月に20ヶ所を設定しました。遺跡中央よりやや北の一部で、平安時代の土師器を含む黒色粘質土の層を確認しました。その直下にはわずかに微高地があり土坑を確認しました。周囲には焼土や炭化物の混入がみられ、古代の集落が存在したと推測されます。遺跡中央部の旧小出川跡地では水田下に酸化鉄を大量に含む厚い堆積があり、ヨシ・アシが繁茂していた環境がうかがえます。

みずはしいけ だ たち

・水橋池田館遺跡

水橋石政遺跡の白岩川対岸にあたり、遺跡の範囲は東限が白岩川、西限は水橋高校付近です。遺跡を南北に貫く県道161号線は水橋から立山へとつながる街道で、この県道沿いの集落には旧家や寺院が建ち並んでいます。

調査は県道と白岩川に挟まれた遺跡南東部分で、10月にトレンチ39ヶ所を設定しました。調査した

中では地盤が最も緩く、地点によっては60～70cmまで掘ると水が湧き、トレンチが水槽と化すことも度々でした。

調査の結果、遺跡中央からやや東に微高地が広がり、そこで土坑、溝、竪穴状土坑（土間状の遺構）などが認められました。中世土師器が伴い、中世の集落と考えられますが、他にもわずかながら平安時代の土師器や近世の越中瀬戸等が出土しており、断続的に生活が営まれていた可能性があります。微高地は県道付近を中心に広がり、地形は白岩川に向かって下がるため、遺跡南東は一面の湿地だったとみられます。



水橋池田館遺跡から出土した土器

みずはしかい はつまち

・水橋開発町遺跡

あいの風とやま鉄道の水橋開発町踏切の南、所在地は水橋狐塚地内です。「狐塚」の地名から墳墓？

の存在が疑われますが、現在、墓地である場所にかつて塚が存在したとの伝承があります。また近世には船着場があり、米を運び出していたともいわれます。

調査は11月、トレンチ9ヶ所を設定しました。その結果、遺跡の全体に洪水砂と湿地化による粘質土が繰り返し堆積した状況がみられ、遺構のひろがりや遺物は確認されませんでした。

みずはしきつねづか

・水橋狐塚遺跡

水橋地区東端、桜木地内にあり、東には上市川と支流の下条川が流れる広々とした水田地帯です。

11月に遺跡北部分を中心にトレンチ21ヶ所を設定しました。調査の結果、水田面からの深さ15～25cmで地山が出る箇所と、湿地の粘質土が1m近く堆積する箇所があり、全体を眺めると南北方向にいくつか自然流路が走っていたと考えられます。遺物は近世の越中瀬戸が出土しましたが、流入品とみられ、明らかな生活痕跡は確認されませんでした。

開発と遺跡

5遺跡のうち、田伏・佐野竹遺跡、水橋石政遺跡、水橋池田館遺跡の3遺跡で遺構の広がりが認められました。今後はほ場整備の工事設計が具体化し、遺跡を保護しながら工事が進められます。

今年度、調査した水橋地区南部の遺跡には河川の影響を受けてきたという共通点があり、治水に苦心を重ね続けたであろう土地の履歴を垣間見ることができました。そして、新たな開発の歴史が積み重なる日はすぐそこまで来ています。

(町田尚美)



今年度調査した水橋地区の遺跡